

そよかぜ

54

2021/11

社会福祉法人長須賀保育園

編集人：広報委員会

発行人：堀口文男

暑い夏がようやく落ち着いたと思ったら、あっという間に秋を通り越して冬の気配が漂い始めました。
デイサービスセンターでは、少しでも活動的な時間を過ごせるよう、工夫を凝らしたプログラムを提供しています。
「コロナに負けないぞ！」ホールに明るい声が響きます。



保育と介護のいま



私たちはコロナ禍においてさまざまな影響を受けました。感染予防が重視され、ソーシャルディスタンス、移動の制限、外出の自粛など、いつもできていたことができなくなり、行動様式も大きく修正しなければならなくなりました。それは、保育・介護現場においても同じです。今般の新型コロナウイルス感染拡大によって、保育・介護の弱点や課題、問題が浮き上がり上がってきたように思います。いまあらためて、ウィズコロナにおける保育・介護現場についてスタッフ2名から話を伺い、アフターコロナのあり方を考えていこうと思い、特集しました。

■桐枝知広（訪問介護）

コロナ禍で変化が大きかったのが利用者との距離感です。ヘルパーは直接ご自宅へ出向いて、一対一で対応します。おむつ交換などの介護、掃除・洗濯など身の回りのお手伝いをするなかで、顔を合わせて会話しながらコミュニケーションを取っていました。

コロナ禍においては、掃除中は別の部屋で過ごしていただいたり、買い物は玄関先での対応になったりと様々な対策を求められ、今まで気軽にしていたコミュニケーションが急にできなくなりました。体調確認、困りごとなどの聞き取りを密に行い、利用者の変化に気付けるようにしています。

プライベートでは、5月に子どもが産まれて父になりました。職場や利用者に対してはもちろんのこと、自分が家にコロナを持ち込んでしまったりはいいないと日々気を付けています。妻も同じ福祉の仕事をしているので、私以上に気を遣い、仕事に対しても理解をしてくれています。自分を守ることは家族を守ること、そう思いながら前を向いて頑張っています。

ウィズコロナの時代にあって、これからも引き続き介護現場には感染予防対策が求められます。初めて直面する長期にわたる感染症への対応に戸惑いながらも、介護を必要とする方へのケアやサービスは継続しなければなりません。

「いつも助かっているよ」

スタッフを労う感謝の言葉に支えられ、それが私たちの力になります。ヘルパーの訪問が安心や楽しみ、休息につながるよう「ヘルパーさんをお願いしてよかった」と言っていただけでも、これからも取り組んでいきます。

ウィズ

コロナ禍で色々な制限がかかり窮屈に感じることも多々ある中、楽しく過ごしてもらえるために様々な取り組みをしています。今回はその取り組みをいくつか紹介します。

家庭でも楽しめる支援

子育て支援センターでは、親子で楽しめる制作キットを配布しました。お家にあるもので簡単に楽しく作れます。



みんなで成長を見守る

発表会は人数制限しましたが、ライブ配信、パブリックビューイングを行って、すべてのご家族がリアルタイムで視聴できました。



のびのびと遊べる環境

豊かな自然環境を活かして、お外でたくさん遊んでいます。なんでもありの自然の中では、毎日が新しいことの発見です。



テラス越しの交流

おじいちゃんおばあちゃんに、テラスを挟んで遊戯や歌を披露しました。コロナ禍の世代間交流、子どもの力がパワーになります。



Instagramで情報発信

保護者の方が園内に入れない今、保育の様子を発信することで、園でどんなことをして過ごしているのかを知ってもらえます。



自粛者へサポート

利用を自粛されている方に、身体機能低下を防ぐための支援として「自宅でできる運動マニュアル」を作成しました。



■阿部法子（保育士）
エッセンシャルワーカーである保育士は、コロナ禍においても子どもたちを直接お預かりすることが求められました。保育士は感染してはならない、感染者を出してはならないという強い緊張感のもと、マスクをつけ、いつも以上に密着を避けて、子どもたちと関わらなければなりません。

1日数回の検温に、園舎やおもちゃの消毒、換気の徹底、食事や午睡中のソーシャルディスタンスの確保と、これまで以上に気を遣いながら保育をせざるを得ず、今まで体験したことのない状況のなかで気力や体力を消耗していたことも事実です。さらに、予定されていた保育園の行事も大きな修正を余儀なくされました。

子どもたちも同じです。コロナ禍では、家庭環境や周囲の大人の精神状態も不安定になります。大人がストレス

を抱えているのですから、それは子どもたちに大きな影響を与えています。普段以上に不安を抱えている子どもたちも多くなっています。

だからこそ、子どもたちに不安を与えない安心できる環境を作ろうと、みんなで保育に臨みました。普段以上に子どもたちに「自分たちが愛されている」と感じられる声かけをたくさんする。子どもたちが困っているときや泣いているときには、すぐに寄り添って話を聴く。当たり前ですが、より、ていねいな保育を心がけていこうと。

とにかく、子どもたちが不安に感じる要素はできるだけ取り除き、愛情を感じられる環境を整え続けてきました。マスクをして表情も見えづらいうので、身体全体で笑顔を表現できるように意識しています。

コロナ禍になったことで、あらためて保育のなかで気づいたこと、大切に思ったことがたくさんありました。また不自由さに直面したことで、天気がいい日に散歩する「やすらぎ」的な幸せであったり、一番身近にいる人と楽しく生活する「つながり」的な幸せが自分にとって大事なことだと再確認できました。

そう考えると、「案外悪いことだけじゃなかったのかも」と今では前向きに考えられるようになっていきます。

運動会

～Autumn～



コロナ禍でも子どもたちの元気を届けたい。人数制限や感染対策で保護者のみなさまにご協力をいただきながら、運動会を開催しました。最初は恥ずかしそうに観客席を見ていた園児も、いざ運動会が始まると、練習を重ねてきた成果を披露することが出来ました！ かわいい子どもたちの姿に、大人が勇気をもらった瞬間でした。最後まで拍手の絶えない運動会となりました。

さとの保育園

もぐもぐらんち



お家からお弁当を持参して、楽しい1日を過ごします。朝から嬉しくて踊ったりジャンプしたり、思わず職員も笑みがこぼれます。隣接するデイサービスセンターのおじいちゃんおばあちゃんにテラス越しで遊戯を披露し、その後、自分たちで作ったお散歩バッグを持って「どんぐり」を拾いました。そしてお待ちかねのお弁当！ 久しぶりのプチ遠足。目をキラキラさせて、頬張っていました。

長須賀保育園

運動あそびおとと



今日は「バランス」。バランスは歩く、走る、跳ぶなど体を動かす上で大切です。丸い半球の上を渡り、前から来たお友達と上手に姿勢を保ちながら、「じゃんけんぽい！」。「おとと！」と前に倒れそうになったり、お友達と手を繋いだりとしながら体を動かしました。運動遊びが終わった後のお片付けまでみんな真剣に取り組みました。

ゆりかご保育園

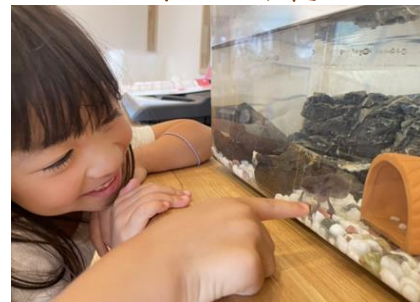
秋のお楽しみ縁日



「わっしょい！ わっしょい！」2歳児さんが元気にお神輿を担ぐ中、縁日が始まります。コロナ禍でお祭りなどが中止されるなか、はじめて縁日を体験した子どもも多かったです。少しでも楽しい思い出になるように、今年はお部屋に花火を打ち上げました！ 給食には、金魚すくいならぬ金魚ゼリーがふるまわれ、縁日を満喫した一日になりました。

うみまち保育園

ウーパールーパーがやってきた



8月にやってきたウーパールーパーは「ミルクティ」と「タピオカ」。そら組とうみ組の人気者になりました。名前は先生と子どもたちで相談しながら決めました。毎日のエサやりが楽しみで、子どもたちが順番でエサをあげています。2匹の食べている様子を「かわいい！」「食べているよ」と言いながら楽しそうに観察しています。

さとの 敬老会

デイサービスセンター

敬老の日をお祝いして、ささやかですが食事会を開催しました。さとのデイサービスセンターでは、喜寿(77歳)の方が1名、米寿(88歳)の方が3名、そして卒寿(90歳)の方が1名おられ、長寿表彰も一緒に行いました。これからも笑顔で健康に過ごされますように。



シェア畑さとの

『自然を、おいしく、
愉快地、つながる』

無料貸農園シェア畑さとの(木更津市下烏田893)は専用の区画で野菜作りを楽しめる農園です。1区画約33㎡(10坪)・散水栓(井戸水)もあります。

現在3区画空きがありますので、ご興味のある方は下記までご連絡をお願いします。

問い合わせ：☎0438-22-3447

社会福祉法人長須賀保育園(担当：柳瀬)